

施設紹介

東北医科薬科大学病院

【はじめに】

東北医科薬科大学病院（以下、当院）は、前身の東北厚生年金病院から2013年4月に学校法人化に伴い東北薬科大学病院（本邦初の薬科大学病院）となり、2016年4月には医学部が新設され（病院名称変更）今日に至っています。現在、病床数は466床、診療科は33科となっていますが、診療科が増設される中、大学病院としての更なる機能の充実が求められており、新病院棟を増設、最新の医療設備（手術支援ロボット（da Vinci））なども順次導入されています。医学、薬学の教育医療機関として、また、高次脳機能障害支援拠点病院、地域医療支援病院、救急告示病院、災害拠点病院、仙台市認知症疾患医療センター指定病院、等により、地域の基幹病院としての役割を担っています。

【病院概要】

所在地：宮城県仙台市宮城野区福室1-12-1

病床数：2018年9月現在、466床（一般病棟420床、精神病棟46床、新病院棟を建築中で増床予定）

診療科：総合診療科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、糖尿病代謝内科、腎臓内



写真1 手術支援ロボット（da Vinci）

分泌内科、脳神経内科、感染症内科、がん治療支援科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、ペインクリニック外科、精神科、血液・リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科

【薬剤部構成スタッフ・業務概要】

薬剤師：42名（内、部長1、師長3、副師長3）、
薬剤助手：4名（2018年9月現在）



図1 東北医科薬科大学福室キャンパス（外観）：医学部教育研究棟（左）、2019年4月運用開始予定新病院棟（右）

1) 調剤業務

調剤室では主に入院患者へ発行された処方箋の調剤業務を行っています。外来患者に対しては原則院外処方箋を発行しています。注射剤自動払出しシステム（ピッキングマシン）を用い、1施用毎に注射剤をセットすることで薬剤の取り間違いを防ぎ、合わせて併用禁忌等を確認し、注射剤の安全な使用に貢献しています。また、当院では舌下免疫療法を受ける外来患者に対しての初回指導などの薬剤師外来も実施しています。



写真2 ピッキングマシンによる業務

2) 病棟業務

当院では一般病棟8病棟、ICU病棟、精神科病棟の計10病棟に計15名の薬剤師を配置し、周術期に管理が必要となる薬剤や持参薬の管理を含めた薬剤管理指導業務、各診療科のカンファレンスや回診への参加等を中心に活動しています。また、2017年9月からは病棟薬剤業務実施加算1及び2を取得し、薬剤師の更なる病棟業務への参画に務めています。2019年度以降は、更に2病棟（計100床）が増設予定であり、今後もチーム医療への積極的な参加、患者の治療への貢献に努めるよう活



写真3 薬剤師（左）から医師（右）への薬物療法に関する提案

動していきます。

また、入院予定の患者に対する持参薬や副作用歴の確認等を行う薬剤師外来も実施しています。なお、一部の診療科ではprotocol based pharmacotherapy management (PBPM)を導入しています。

3) がん化学療法業務

化学療法担当として4名の薬剤師を配置し、レジメンの登録と管理、化学療法処方箋の投与量や投与基準等の確認、抗がん薬の無菌調製、薬剤指導を行っています。

昨年からは開始した外来化学療法センターの薬剤指導では、化学療法開始時には投与スケジュールや副作用を説明し、継続投与時には副作用の確認や患者に合った支持療法を提案するなど、安全な化学療法を提供するために他スタッフと連携して積極的に活動しています。



写真4 抗がん薬のミキシング作業

4) 医薬品情報 (DI) 業務

医薬品に関する情報の収集、管理等を担っています。医療スタッフからの問い合わせの対応、DIニュースの作成などの一般的な業務に加え、最近ではドラッグフォーミュラリー（院内フォーミュラリー）の立案にも取り組んでいます。また、2018年4月からはDI室における院内副作用報告の一括管理を開始しており、電子カルテ（富士通製）のeXChart機能を用いて効率的に副作用の情報収集を行っています。DI担当薬剤師は、収集された院内副作用と当院におけるPMDAへの報告基準との照合後、必要に応じてPMDAへの報告書を作

成し送付するなどを行っています。

5) 医薬品管理業務

医薬品の適正使用および適正管理が実施されるように、医薬品の購入や病棟などへの払い出しと管理を行っています。また、医薬品の新規採用や見直しのための薬事委員会事務局も務めています。ジェネリック医薬品を積極的に採用し（現在、後発医薬品使用体制加算2取得）、またバイオ後続医薬品への切り替えも進めています。

【チーム医療】

1) ICT（感染制御チーム）とAST（抗菌薬適正使用支援チーム）

感染制御部（専従）、TDM・ICU担当（専任）の2名の薬剤師が参加しています。ICT環境ラウンド（週2回）では、診療現場における薬品の管理状況、注射剤の清潔な取扱いなどを確認します。ASTミーティング（週1回）では、抗菌化学療法の実施状況を確認します。必要時には、用量変更や薬剤選択、検査などを提案し、電子カルテにフィードバック内容を記載します。また、病棟担当薬剤師と感染情報を共有し抗菌薬適正使用を推進しています。



写真5 ICTカンファレンス

2) NST（栄養サポートチーム）

当院のNSTは医師、歯科医師、管理栄養士、看護師、薬剤師等で構成され、各職種が患者情報を元に栄養治療計画書を作成します。週1回の病棟回診では、主治医や病棟看護師と問題を共有し、具体的な解決策を提案します。加えて、褥瘡

回診、がん診療支援チームと協同し栄養サポートを実施しています。毎月、知識の向上を目的に症例検討カンファレンスを開催しています。

3) がん診療支援（緩和ケア）チーム

当院の緩和ケアチームは、医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士、理学療法士にて構成され、がん患者のみならず非がん患者も対象としています。週に一度回診を行い、患者の疼痛コントロール等の状態を把握し、患者にとって最適な改善策をチーム内で協議・提案しています。必要であればがん治療支援科外来の診察に同席し、オピオイド使用の初回指導や残薬の確認など診療のサポートを行っています。

4) 糖尿病療養指導チーム

「臍臓を大切にしよう」を合言葉に治療や療養指導を行っています。平日は、毎日糖尿病教室を開催しています。午前はDVD講習、午後は各職種のスタッフが専門分野の講義を担当しています。個別指導では、看護師による療養指導、管理栄養士による栄養指導、薬剤師による服薬指導や自己注射手技指導、そして最近では臨床心理士との面談を行っています。また、ミーティングや症例検討会を行い、糖尿病診療向上に努めています。今後も、患者様が糖尿病治療に関心を持ち、実行・継続してけるようにしていきたいと思っています。

5) 骨粗鬆症リエゾンサービスチーム

骨粗鬆症リエゾンサービスとは、医師及び多職種のメディカルスタッフが相互に連携しながら実施する骨粗鬆症の予防と改善及び骨折防止の取り組みのことを指します。当院では骨粗鬆症学会認定医、病棟看護師、薬剤師、理学療法士、放射線技師、管理栄養士のメンバーで活動を行っています。薬剤師の役割として、骨粗鬆症治療薬の導入について医師と相談を行っています。また、処方薬の退院後の服用継続率の向上へむけての取り組みや、その他副作用や服用の注意点についての説

明を行っています。

6) DMAT (災害派遣医療チーム)

DMATは、大規模災害や事故の際、現場へ迅速に駆けつけ医療活動ができるよう専門的な訓練を受けた医療チームです。当院では2009年にDMATが結成され、薬剤師(2名)も隊員として活動しています。2018年9月に発生した北海道胆振東部地震では、現地に出動し病院支援等に従事しました。災害発生時に迅速に対応できるよう、日々業務を行いながら訓練や研修に取り組んでいます。



写真6 北海道胆振東部地震派遣出動

【薬学教育と研究】

東北医科薬科大学福室キャンパスの大学病院内に薬学部の研究室(病院薬剤学教室)と薬学部実習室(20名収容)が設けられており、薬剤部員に加えて薬学部教員3名(内、1名は薬剤部長を兼務)による教育研究体制が整えられています。

2017年度実績で、薬学部1年生59名(早期体験学習)、薬学部2年生27名(ボランティア学習)、薬学部5年生34名(病院実習、3期、延べ36週間)、大学院薬学研究科博士課程学生4名(臨床薬学研修、半年間)、医学部1年生100名(チーム医療学習、20日)を受け入れ、指導しています。また、薬剤部と看護部の協同で宮城大学看護学部の学生と実務実習期間中の薬学部5年生を対象に、入院中患者の実症例を通じた専門職連携教育(IPE)を実施(トライアル)しています。

研究としては、薬剤師の活動を推奨・支援し、また医師との共同研究も進めています。



写真7 IPE 発表会風景

【おわりに】

当院は、2016年4月より医学部設置により大学病院としての機能の向上がもたらされており、広い意味で改革途上にあります。従って、薬剤部も多様な業務展開が必要となっており、例えば、医薬品の適正使用推進の一つの方法として医師の協力のもとに院内フォーミュラリーを運用しています。

薬剤部の薬剤師は資質向上を図り、また、院是である「忠恕」(真心を尽くし、思いやりの心で務める)の精神に則り、心のこもった医療・最も新しい医療・納得できる医療の実践に努めるようにしています。

教育医療機関として、医学・薬学の学生への指導のほか、医療チームの一員として患者が適正に医薬品を使用するための指導と援助を行っています。今後、薬業連携の一助として、保険薬局の薬剤師の方々の病院研修にも協力する構想を進めています。

高度医療のほか、地域医療に貢献するために日々研鑽を重ね業務に取り組んでいきます。

東北医科薬科大学病院薬剤部 一同



宮城縣病藥

二五二八

NO. 90